

第3章

函館市の課題とまちづくりの考え方

1 人口減少を見据えた優先的に取り組むべき函館市の課題

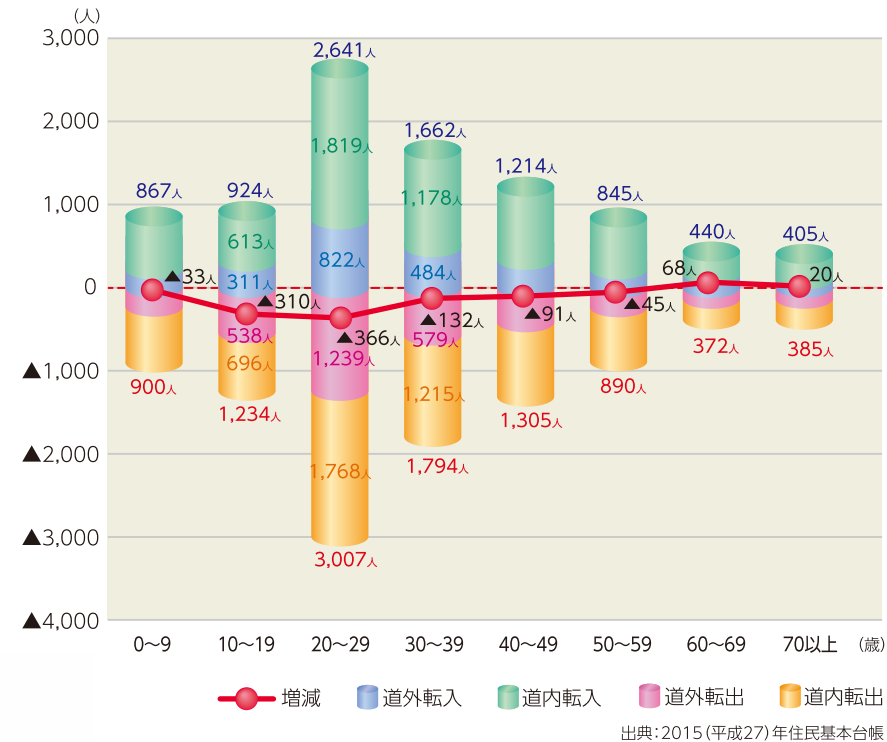
本市は、全国、北海道に先駆けて人口減少が進んでおり、この要因としては、

- ◎ 若年層をはじめとする転出超過
- ◎ 合計特殊出生率の低下などに伴う出生数の減少
- ◎ 高齢化に伴う死亡者数の増加

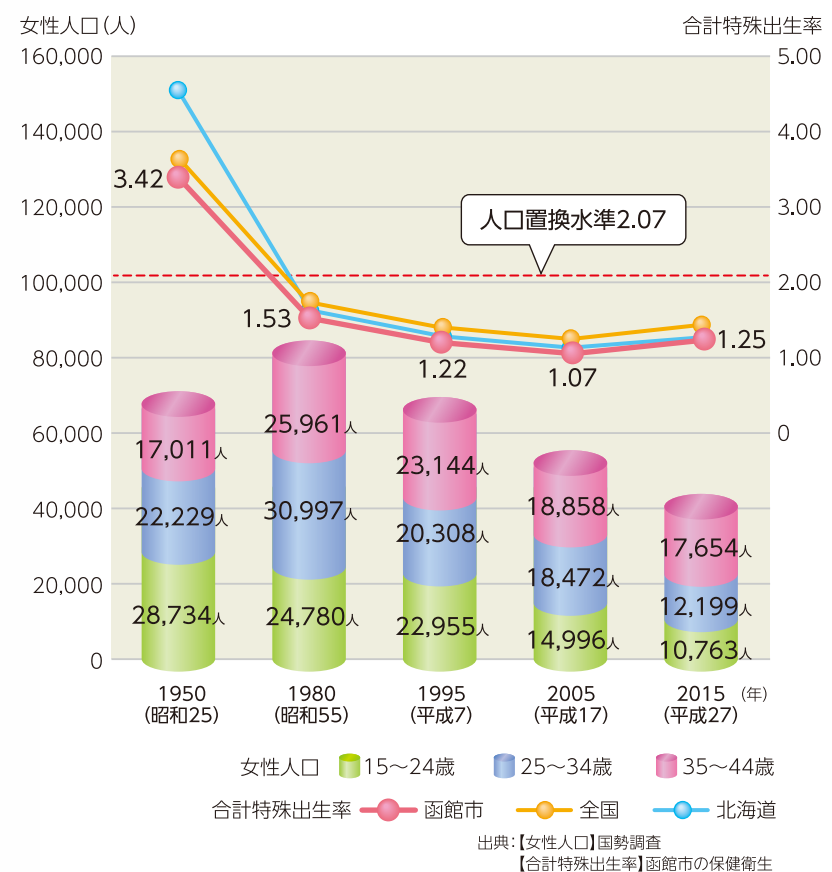
などとなっています。

このような人口減少の要因を長期的な視点で見据え、市民、企業、団体など（以下、「市民等」という。）と行政との協働によるまちづくりを推進するため、今後10年間に優先的に取り組むべき課題を明確にします。

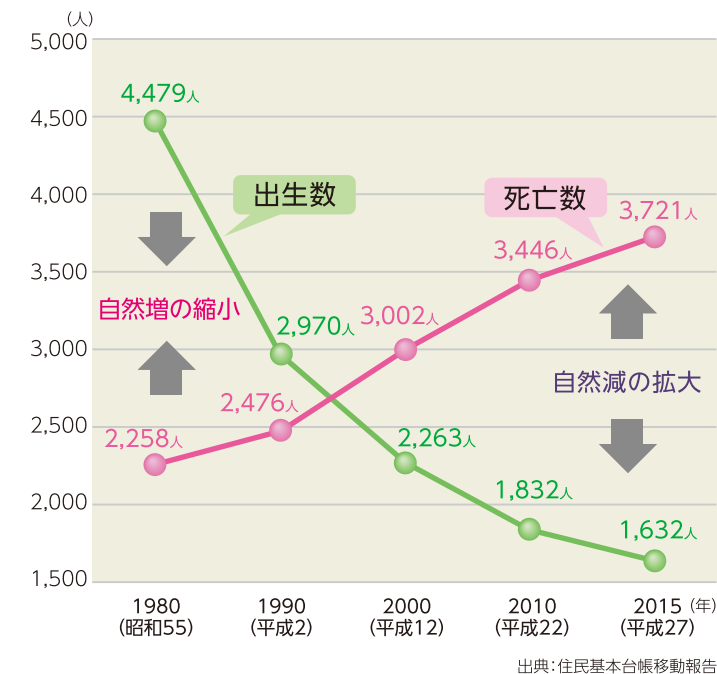
■ 年齢別転入・転出状況



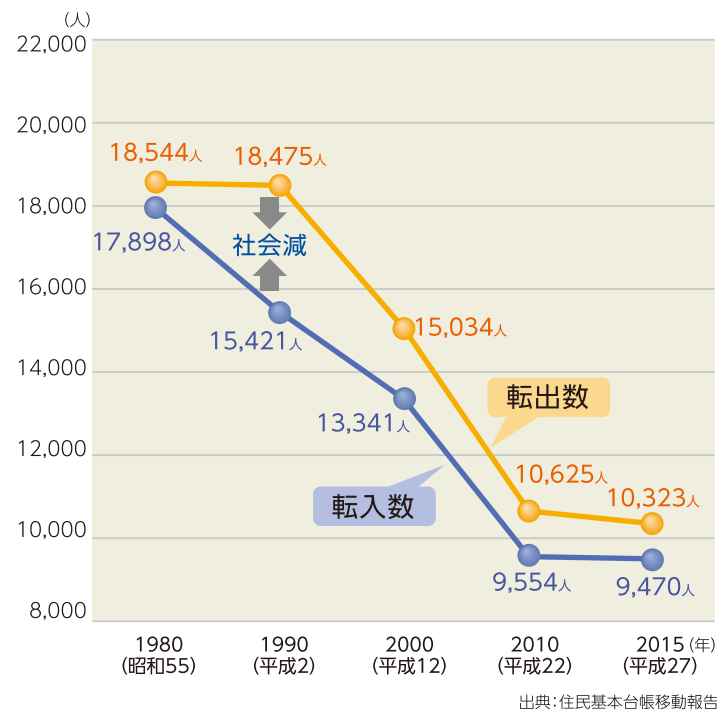
■ 女性人口と合計特殊出生率の推移



■ 出生数と死亡数の推移



■ 転入数と転出数の推移



〔1〕地域経済の活性化と安定した雇用の確保

人口減少は、地域内消費活動の縮小による経済活動の停滞や、これに伴う雇用機会の減少による若年層をはじめとする生産年齢人口の流出につながり、さらなる人口減少へと陥る悪循環を生み出すおそれがあります。

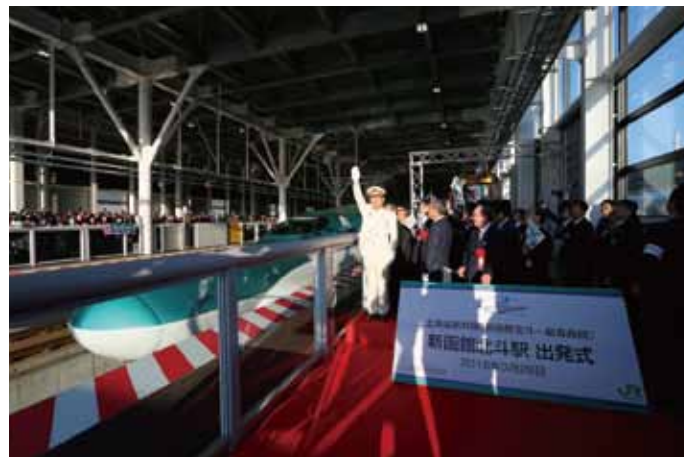
地域経済の低迷が続くなか、本市はこれまでも様々な施策に取り組んできており、台湾や中国との国際定期便の就航などによる外国人観光客の増加をはじめ、北海道新幹線の開業や中心市街地活性化事業の進展などにより、まちに新たな賑わいが生まれ始めています。この動きを止めることなく、地域経済の活性化を図り、若年層をはじめとする安定した雇用を確保することが課題となっています。



〔2〕北海道新幹線開業後のまちづくりの取組

北海道新幹線の開業により新たな時代を迎え、本市は国内外から広く注目される都市の一つとなっています。

今後、道内をはじめ、北関東や東北地域など、多くの自治体との連携により拡大する人や物の流れを最大限に活用し、新幹線開業効果を一過性のものとすることなく、2030(平成42)年度に予定されている北海道新幹線の札幌延伸を見据え、長期的な視点でまちづくりに取り組むことが課題となっています。



写真提供 JR北海道



〔3〕少子・超高齢社会への対応

少子・高齢化の進行に伴い、これまで地域を支えてきた様々な分野の団体などにおいても、構成員の高齢化が進むとともに新たな担い手が不足し、団体の維持や継承が困難になるなど、地域コミュニティの機能やまちの活力の低下が懸念されます。また、部活動や文化祭など一定規模の集団を前提とした教育活動の機会の減少や、伝統的行事などにおいて、子どもが様々な人々と交流し、社会性を育むことによる成長機会の減少が懸念されます。

人口減少が進んでも、誰もが快適で豊かな暮らしを送ることができる地域社会を実現するため、地域を支える人材を育成・確保し、少子・超高齢社会へ対応することが課題となっています。

また、家庭を築き、子どもを生み育てたいという希望がかなえられ、全ての子どもが健やかに成長することができる社会の実現に向け、地域社会全体で支え合う環境の整備が課題となっています。

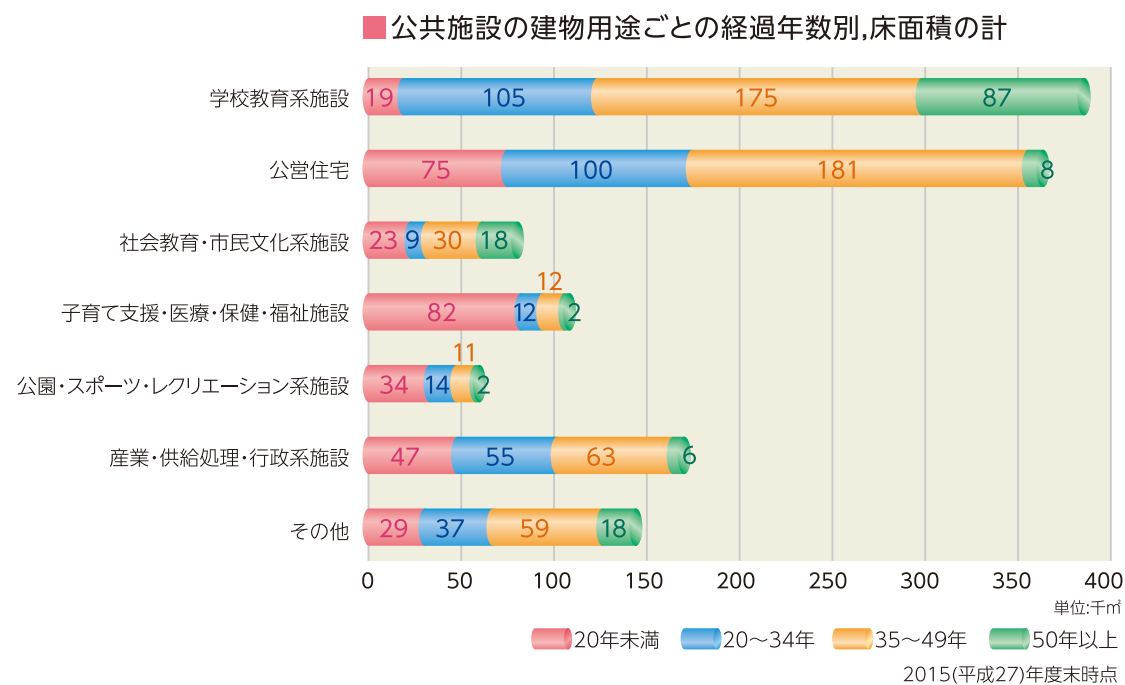


〔4〕持続可能なまちの形成

本市の財政は、人口減少により市税や地方交付税などの歳入が減少する一方、高齢化の進行による社会保障費の増加および道路等の社会基盤施設や公共施設の老朽化への対応などから歳出が増加し、厳しい状況が続くことが見込まれています。また、市民生活においても、地域コミュニティを支える人材不足や行政サービスの縮小など、様々な影響が懸念されます。

このようななか、行政としては、限られた財源で効率的かつ効果的な行政運営を推進する責務がある一方、市民等としては、地域のため自ら行動することが求められています。

人口が減少しても、医療や福祉、商業など日常生活に必要なサービスの低下をできる限り抑制し、市民生活の利便性を維持するため、都市機能の集約化を図るなど、土地利用のあり方を含め、長期的な視点に立ち、持続可能なまちの形成に取り組むことが課題となっています。



2 まちづくりの基本的な考え方

今後10年間に優先的に取り組むべき課題の解決に向け、市民等と行政が基本的な考え方を共有し、ともにまちづくりを進めます。

〔1〕社会情勢の変化と 函館市の現状を踏まえたまちづくり

急激な高齢化の進行や地球環境の変動など、社会情勢の変化を的確に捉え、まちづくりに取り組む必要があります。特に、経済分野においては、グローバル化が進み、将来予測が困難であることから、地域経済を活性化するため、世界の経済情勢や地域に及ぼす影響を踏まえ、まちづくりを進めます。

また、国内外の情勢に加え、人口の推移や経済・産業など、本市の現状を踏まえたまちづくりを進めます。



〔2〕函館市の優位性を活かすまちづくり

本市は、函館山からの夜景をはじめ、教会や旧領事館などが建ち並ぶ異国情緒豊かな町並み、約1万年前に生まれた縄文文化など、独特の地理的・文化的・歴史的資源を有しているとともに、恵まれた自然環境や過ごしやすい気候など、快適な生活環境を併せ持っています。さらに、様々な分野の学術研究機関が集積していることや、陸・海・空の交通の要衝であることなど、本市には数多くの優位性が存在しています。

こうした数々の魅力が評価され、本市は、2016(平成28)年の民間調査会社による地域ブランド調査で、魅力ある都市全国第1位に選ばれました。

全国の自治体が地方創生に取り組み、地域間競争が激しさを増すなか、本市は、新幹線開業によりさらに注目度が高まっていることから、こうした優位性を最大限に活かし、まちづくりを進めます。



〔3〕ともに役割を果たし 協働を進化させるまちづくり

市民の価値観やライフスタイルが多様化するなか、誰もが生き生きと自分らしく暮らすことができる地域社会を実現するためには、市民等と行政が、それぞれの役割を果たし、自治基本条例の理念のもと、本市が抱える様々な課題の解決に向けてともに取り組むことが求められています。

市民等は、自らがまちづくりの主役であるという認識のもと、主体的な活動を充実させ、一方、行政は、市民等を支え、ともにまちづくりを進める環境整備を図り、これまで取り組んできた市民協働をさらに進化させ、まちづくりを進めます。



3 土地利用の考え方

土地は、人が生活し生産活動などを行ううえで基盤となるものであり、未来へ適切な形で引き継ぐべき限られた資源です。このため、本市の現状を踏まえ、土地利用にあたっては、その特性を、「市街地」、「農業・漁業地域」、「森林」、「緑地」の4つに分類します。市民等と行政は、この分類に基づき、それぞれの土地の現状や役割を的確に把握するとともに、協働して、生活環境の維持や、自然環境の保護・保全および災害に対する安全性の確保に努め、長期的な視点に立って、総合的かつ計画的に土地利用を進めます。

〔1〕市街地

市街地は、健康で文化的な生活と地域産業の振興を支える企業活動の場であり、商工業をはじめ、医療や福祉、学校などの都市機能が集積している地域です。人口減少が避けられないなか、市街地の土地利用にあたっては、既存資源の有効活用という視点に立ち、住居と都市機能を適正に効率よく配置するとともに、公共交通の再編を図り、市街地の利便性と快適性の確保に努めます。

〔2〕農業・漁業地域

農業・漁業地域は、生産活動や生活の場であるとともに、豊かな自然を有する地域です。そのため、農業や漁業の振興と自然環境の保護・保全との調和を図るとともに、地域コミュニティの維持に取り組んでいきます。なかでも農地は、農業の生産基盤となる大切な資源であることから、その整備により生産性の維持・向上を図るとともに、他用途への転用を最小限にとどめ、保全に努めます。

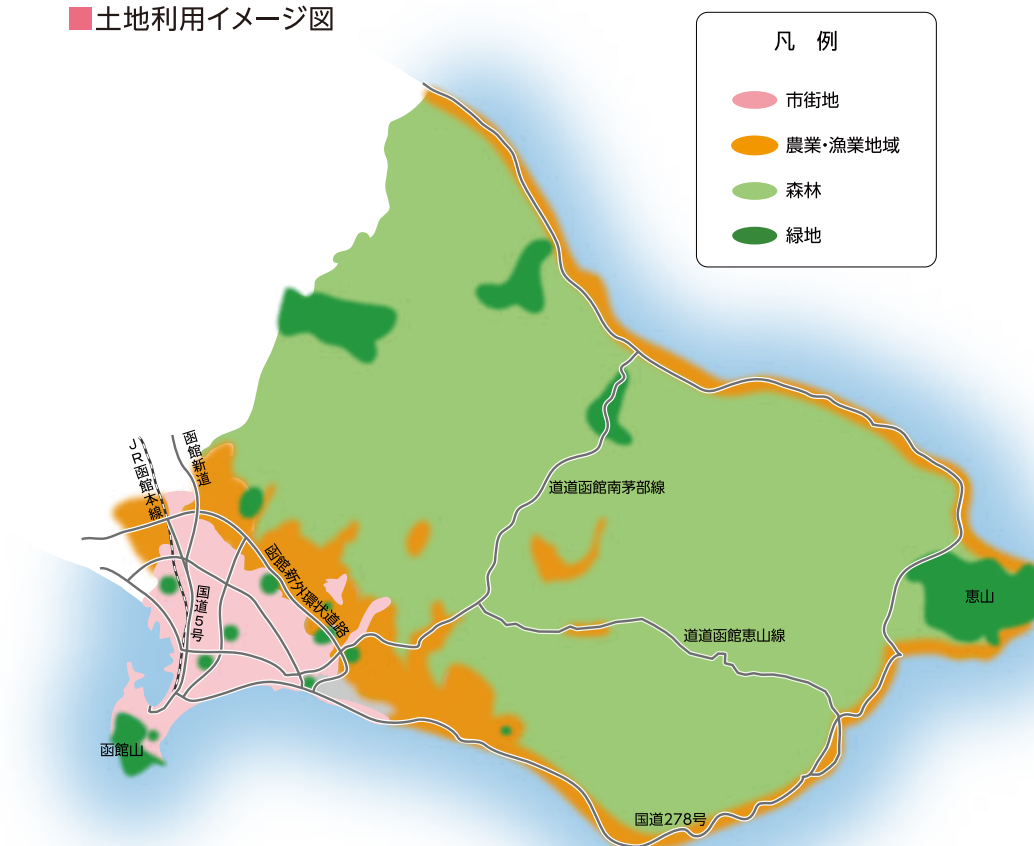
〔3〕森 林

森林は、水源のかん養や生物多様性の保全、山地災害の防止、休養の場、地球温暖化の防止のほか、沿岸海域の環境保全といった様々な役割を担っていることから、適切な管理・整備により森林機能の維持・向上に努めます。

〔4〕緑 地

樹林や公園に代表されるオープンスペースとしての緑地は、都市環境の維持やレクリエーション活動、都市防災、景観の形成といった役割を担っており、また、自然の宝庫である恵山道立自然公園や函館山などは、市民共有の財産であることから、これら緑地の保全と機能向上に努めます。

■土地利用イメージ図



函館市の将来像

本市は、北前船の寄港地として、また、北海道開拓の拠点や国際貿易港として栄え、その後、大正時代以降は、北洋漁業や造船業など水産関連産業を基盤に発展してきました。

一方、縄文時代に始まる海を挟んだ青函圏の形成や、国際貿易港としていち早く海外に門戸を開いたことなどによる異なる文化との交流が、独特の歴史と文化を育んできました。こうした歴史や文化に培われた町並みに加え、函館山や恵山といった豊かな自然や、恵まれた農水産物を活かした食など、多くの魅力にあふれたまちです。

この魅力は、国内外から多くの人々が訪れ、交流し、ともに手を携えて、長い年月をかけて先人たちが培ってきたものです。しかし、歳月を重ねるにつれ、市民一人ひとりがこうした歴史を理解し、このまちを未来へつないでいくという意識が失われつつあります。

2016(平成28)年3月26日、私たちが待ち望んだ北海道新幹線が開業し、本市は新たな時代を迎えました。この歴史的な転換期に函館の未来を想うとき、今を生きる私たちの使命は、現状に甘んじることなく、まちの魅力を新たに創り出し、さらに高めて、次世代へ継承していくことだと考えます。

函館に住むすべての人が、このまちに誇りと愛情を持ち、まちの未来のために自らが行動するとともに、国内外から様々な人が集い、絆を結び、お互いに力をあわせともに歩むまちでありたい。

新たな時代の幕開けに、こうした共通の願いを込めて、函館市の将来像を、

北のクロスロード HAKODATE

～ともに始める 未来を拓く～

と定めます。